2026 年 11 月４日

各　位

株式会社八十二長野銀行

# 安全かつ適切な AI 利活用を支える基盤・管理体制の整備について

八十二長野銀行（頭取　樋代 章平）は、2026 年２月に構築着手を公表した「AI・データ基盤」の稼働を開始し、本基盤上で開発した当行独自 AI の第一弾である「資料作成 AI」と「マイデータ AI」について、全役職員による業務利用を開始しました。

あわせて、AI の活用拡大を見据え、AI を安全かつ適切に使うための行内ルールと体制を定めた「AI 管理規程」を制定しましたので、お知らせいたします。

当行では引き続き、AI・データ基盤の安全対策と AI 管理規程によるルールの両面から安全な AI 活用を徹底し、お客さまへのサービス向上と企業価値の向上につなげていきます。

## １．AI 利活用において当行が目指す姿

一般向けの AI は高性能で便利ですが、当行が培ってきた知識・ノウハウを活用し、お客さまの情報を守りながら利用するためには、そのための基盤が必要でした。そこで当行は、安全な AI 活用を支える共通の土台として独自の「AI・データ基盤」を構築しました。

| 当行「AI・データ基盤」の特徴 | | 一般的な AI を個別導入した場合 |
|---|---|---|
| 安全性 | 当行専用の安全な環境で AI を一元管理し、情報漏洩や不正利用を防止<br>⇒ お客さまの情報を守り、銀行品質の安全性を確保 | AI ごとに安全対策や管理方法が異なる |
| 知識蓄積 | 当行の知識・ノウハウを蓄積・更新し、AI の回答品質を向上<br>⇒ お客さまへのサービスやご提案の質を向上 | 一般的な知識で回答し、当行の知識・ノウハウが反映されにくい |
| 拡張性 | 開発した機能を再利用し、新しい技術にも柔軟に対応<br>⇒ 新しい AI を迅速に開発し、継続的に機能を向上 | 機能の再利用が難しく、開発効率が上がりにくい |

## ２．「AI 管理規程」の制定による管理体制の強化

当行は 2024 年５月に「八十二グループ AI ポリシー」を制定し、安全で信頼できる AI 活用に取り組んできました。今後の AI 活用の拡大を見据え、より適切な管理体制を整備するため、AI ポリシーを基本とした「AI 管理規程」を制定しました。

| 主な管理のポイント | 内 容 |
|---|---|
| すべての AI を一覧で管理 | 当行で使う AI を一覧にまとめて把握し、継続的に点検します |
| リスクに応じた継続的な管理 | 個人情報や著作権などへの配慮について、AI を利用する部署とリスク管理部署の双方が確認し、利用開始後も継続的に点検します |

### ３．「資料作成 AI」・「マイデータ AI」の利用開始

AI・データ基盤を活用した取組みの第一弾として、「資料作成 AI」と「マイデータ AI」の利用を開始しました。これらの AI により、職員の情報収集や資料作成等を効率化し、お客さまとの対話やご提案の充実につなげてまいります。今後は、本基盤に当行の知識やノウハウ、データを蓄積・活用しながら AI の活用領域を段階的に拡大するとともに、AI が職員と協働して業務を進める「AI エージェント」の活用をさらに進めていきます。

| 名 称 | 機能・効果 |
|---|---|
| 資料作成 AI | 資料の目的と読み手を指定するだけで、AI が構成を考え、資料のたたき台を作成します<br>⇒ 資料作成を効率化し、<br>お客さまとの対話機会の拡大や提案品質の向上につなげます |
| マイデータ AI | 指定した資料や記事の内容だけをもとに、AI が質問に答えます<br>⇒ 複数の資料・情報を効率よく整理し、回答の根拠を確認しながら、<br>正確で分かりやすいご案内につなげます |

以 上